

2026 年度 事業計画書

事業期間：2026 年 4 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日まで

2026 年 5 月 12 日

1. N ピボ基本方針

N ピボ基本方針 (2026 年度)

2026 年度の方向性

2026 年度の N ピボは、「広げる」よりも「濃くする」ことを重視します。

これまで N ピボは、国際協力 NGO のスタッフがともに学び、新しい発想や魅力を生み出すことで、NGO が本来持つ強みを活かしながら、NGO セクターにイノベーションを起こし、世界の課題解決を加速させることを目指して活動してきました。

昨年度までに、N ピボは 391 人の国際協力 NGO スタッフが参加するコミュニティへと成長し、多様な立場の実践者がつながる土台が築かれてきました。すでに、一定規模にリーチできる基盤はできています。だからこそ 2026 年度は、さらに人数を増やすことを主眼に置くのではなく、コミュニティの中身をより深め、N ピボならではの価値を高めていくことに力を入れます。

現状と課題

これまでの取り組みの中では、2024 年度から始まった Canva セミナー、2025 年度から始まった UNBOUND などを通じて、新しい層へのリーチを広げることができました。

一方で、参加者が集まりやすいのは、学びを得られるセミナーや有名ゲストを招いたイベントであり、オンライン交流系やアイデアを出し合う系のイベントでは、参加者が伸び悩む傾向がありました。

また、学べる企画や著名なゲストによる企画は入口として有効である一方で、それだけでは他のコミュニティでも行われているオンラインイベントと大きな差が出にくいという面もあります。参加者数は増えても、Nピボならではの特徴や魅力が見えにくくなる可能性があります。

そのため 2026 年度は、単に参加者が集まる企画を続けるのではなく、Nピボらしさとは何かを改めて意識し、それを軸に活動を組み立てていくことが必要だと考えています。

2026 年度に重視する 3 つのこと

2026 年度は、特に以下の 3 点を重視して取り組みます。

1. Nピボらしい実践的な学びと相談の場を育てる
2. Nピボコミュニティ内のつながりを深める
3. ピボット成功体験を発掘し、見える化する

Nピボらしい実践的な学びと相談の場を育てる

Nピボが大事にしたいのは、単なる情報提供の場ではなく、実践者同士だからこそできる、本音の相談や具体的な工夫の共有ができる場です。

外ではなかなか相談しにくいことを話せること、一般的には参加者が集まりにくいようなマニアックなテーマでも安心して話せること、そして実務に根ざした知恵を持ち寄れること。そこに、Nピボらしさがあると考えます。

そのため、2026 年度は公開のオンラインイベントを、参加二ーズが高く、新しい人にも開きやすい企画に絞って実施します。具体的には、Canva、UNBOUND、アドボカシー系のイベントなど、学びがあり、入口としても機能する企画です。

一方で、Nピボらしさをより体現する場として、クローズドな小規模相談会を増やしていきます。たとえば、単なる「AI の基本講座」を行うのではなく、

- 私は AI を使って助成金申請書をこう書いている
- AI だとばれないようにメルマガを書く方法
- AI で書いた申請書は、評価が下がるのか

といった、現場で実際に悩み、工夫している人たちだからこそ語れるテーマを扱う場をつくっていきます。

Nピボコミュニティ内のつながりを深める

Nピボの価値は、学びの機会そのものだけではなく、人と人とのつながりの中から新しい挑戦が生まれることにもあります。

そのため 2026 年度は、オンライン交流会は廃止し、できるだけオフラインでの交流機会を増やしていきます。飲み会やモルックなど、気軽に集まれる場を増やし、実際に会うことで心理的距離を縮めていくことを目指します。

オンライン上では、実務的でマニアックなテーマを相談し合う。

オフラインでは、実際に顔を合わせて関係性を深める。

この両方があることで、単発のイベント参加にとどまらない、継続的なつながりが生まれやすくなります。

また、こうした企画は理事だけでつくるのではなく、有志による企画立案も歓迎します。参加者自身が関わり、場をつくる側にもなっていくことで、コミュニティの厚みを増していきたいと考えています。

ピボット成功体験を発掘し、見える化する

Nピボが目指しているのは、単に学びの機会や交流の場を提供することではありません。

その先に、参加者や団体の中で新しい変化や挑戦が生まれ、**ピボット成功体験**が育っていくことを大切にしています。

実際に、そのような事例はすでに生まれています。

たとえば、DAREDEMO HERO の内山さんは、CWS の五十嵐さんと Nピボの活動を通じてオンライン上で知り合い、その後、五十嵐さんがセブを訪れた際に飲み会を行いました。そこから関係が深まり、内山さんの団体は、もともと教育支援が中心だったところから、緊急支援にも取り組むよ

うになりました。そして、緊急支援の実践者である五十嵐さんに気軽に相談できる関係も生まれています。

これは、Nピボを通じて生まれた非常に象徴的なピボット成功体験です。

教育支援中心の団体が、緊急支援にも取り組める団体へと変化したことは、まさにNピボが後押しした変化の一つだと言えます。

ただし、このような成功体験は、十分に見える化されているとは言えません。内山さんの事例も、ゆっくり話を聞く中で、本人が何気なく話したことから見えてきたものでした。つまり、**本人すら気づいていないピボット成功体験が、他にもたくさん眠っている可能性がある**ということです。

そこで2026年度は、こうした成功体験を意識的に発掘し、コミュニティの中で見える形にしてい
くことにも取り組みます。

総会での仕掛け

そのための具体的な仕掛けとして、**2026年5月の総会で5分程度の短いワーク**を実施したいと考えています。

内容は、参加者が「自分がこれからピボットしたいこと」を短冊のような軽い形で書き出し、あわせて「1年後の自分への手紙」を書くような感覚で残す、というものです。

重たい目標設定ではなく、あくまで気軽に、自分の中にある変化の芽を言葉にしてみる時間にしたいと考えています。

そして半年後や翌年の総会で振り返ることで、2027年5月には、どのような変化や成功体験が生まれたのかを可視化できるのではないかと考えています。

まとめ

2026年度のNピボは、参加者数の拡大を目指す年というよりも、**コミュニティの中身を深め、Nピボならではの価値を育てる年**と位置づけます。

そのために、

- Nピボらしい実践的な学びと相談の場を育てる
- Nピボコミュニティ内のつながりを深める
- ピボット成功体験を発掘し、見える化する

この3つを重視して取り組みます。

公開イベントは入口として活かしつつ、クローズドな相談の場やオフラインの交流を通じて、より深い関係性と実践の変化を生み出していく。そうした積み重ねの中から、Nピボらしいピボット成功体験を育て、NGO セクターのアップデートにつなげていきます。

2. 事業

下記の事業を実施します。

（１）ピボット教室・ピボットインタビュー

- 2026 年度の重点ポイントです。Nピボらしい、濃い学び合いの場を増やします。
- NGO セクターで働く中で、日々生まれてくる「お困りごと」や各個人が抱える悩みを slack 上で拾い上げ、**ピボット教室**で気軽に相談できるようにします。Nピボメンバー限定のピボット教室だからこそ可能なカジュアルな勉強会や相談会を実施していきます。
- NGO で働く個人の生き方にスポットを当てる**ピボットインタビュー**を月1回ペースで実施し、相談しやすい仕組みを作ります。

（２）リアルで交流できる交流の場

- オンラインの交流イベントは削減し、オフラインでの交流の場を増やします。
- モルックなど、楽しい交流の機会を増やします。

（３）オンライン勉強会・イベント

- **オンラインでの勉強会・イベント（UNBOUND、Canva 勉強会、アドボカシー勉強会）**を継続的に実施していきます。各界で活躍されている講師の方をお招きし、NGO セクターで働くメンバーに有益な学びの場を作ります。勉強会イベントをきっかけに、Nピボへの参加を促します。

（４）情報共有

- 現在、多くの国際協力 NGO 関係者が登録している**メーリングリスト**の内容を充実させ、登録者を増やしていきます。
- **Slack コミュニティ**を活性化し、ログインしたくなる場を育てていきます。

(5) その他 (N ピボの目的を達成するために必要な事業)

- 上記の活動以外に、N ピボの目的のために必要になった事業を柔軟に実施していきます。